

成人鼠径部ヘルニア手術における半吸収性Meshの臨床使用経験

今回は、成人鼠径ヘルニア手術で半吸収性Meshを使用した患者さんの術後のQOLについて、国際親善総合病院 亀山先生、富田先生、名古屋市立大学病院 今藤先生、済生会新潟第二病院 桑原先生にインタビューし、その効果についてご紹介させていただきます。

半吸収性メッシュを使用し、術後の痛みが軽減した印象。



国際親善総合病院
外科部長

亀山 哲章 先生



国際親善総合病院
外科医長

富田 真人 先生

我々の施設では2009年2月から本邦初の半吸収性MeshであるUPP(Ultrapro* Plug)を採用、2010年1月にUHS(Ultrapro* Hernia System)も導入し、現在までに約140例に使用しています。UPPはインダイレクト症例と限局性のダイレクト症例に適用し、びまん性の大きなダイレクト症例ではUHSを使用しております。10代から20代の若年患者に対してはMarcy法を適用します。

麻酔は、腰椎麻酔を原則とし、高齢者に対しては全身麻酔、ハイリスク症例には局所麻酔をおこなっております。

UPPを使用する前はHeavy weight meshを使用していましたが、Meshの腹腔内への突出と患者さんの術後の異物感について問題を感じていたため、半吸収性素材のUPPを導入しました。UPP法の合併症としては、血腫を1例のみ認め、セローム、再発については経験しておりません(表1)。

術後のQOLについて違いを感じたのは、以前Plug型 Meshで鼠径ヘルニア手術をおこなった患者さんのもう片側の手術にUPPを使用した症例を経験した時です。患者さんは、前回術直後に体の奥の痛みをかなり感じていたため、今回も覚悟していたようですが、今回はその痛みが無く驚いていました。他の患者さんについても術直後の体の奥の痛みが少なく、術後2週間から1カ月後に外来で受診された際も体の奥の痛み、体動時の痛みについても以前より少なくなった印象を持っております。また、術直後からMeshを入れていないような創部の柔らかさも感じております。これは今までになかった感覚です。

今後の当院におけるヘルニア手術の方向性としては日帰り手術の選択も視野に入れ、短時間でシンプルにおこなえるUPP法を標準とし、今後高齢患者の増加に伴い増えることが予想される大きなヘルニアに対してはUHS法、両側ヘルニア・再発症例・若い女性についてはシングルポートによるTAPP法をおこない、症例に応じたカスタマイズをおこなっていきたいと考えております。

●表1:UPP, UHS 140例の術後成績

再 発	0例
セローム	0例
血 腫	1例

違和感が減少したという患者さんからのフィードバック。



名古屋市立大学病院

今藤 裕之 先生

私共の施設では2009年4月からUPPを導入し、12月からUHSも採用し、現在までに15例ほど使用しており、インダイレクト症例にはUPP、ダイレクト症例にはUHSを適用しております。原則として全身麻酔にて手術を実施しますが、ハイリスク症例に対しては腰椎麻酔でおこなっております。

導入に至った理由としては、①半吸収性素材で残留する異物量が少なく、ポアサイズも大きいため従来のHeavy weight meshと比べ異物感や疼痛の軽減が期待できる、②形状がフラット構造なので腹腔内に突出するリスクも少ない、③半吸収性素材にも関わらず大きく価格が変わらないということがあげられます。

Heavy weight meshで鼠径ヘルニア手術をおこなった患者さんで、約1年後に対側でUPPを使用した症例を経験しました。通常退院して約1週間後に外来でフォローアップしていますが、その際に患者さんから以前のHeavy weight meshを使用した時より術後の違和感が非常に少ないというお話を伺いました。今後、鼠径部ヘルニア手術の新たな方向性として期待しております。

●UPP, UHS 15例の術後成績

再 発	0例
セローマ	0例
血 腫	0例

創部の柔らかさを実感。



済生会新潟第二病院
外科部長

桑原 明史 先生

我々の施設では年間約140例の鼠径部ヘルニア手術をおこなっております。若手外科医に合併症なく安全に手術をおこなってもらう観点から、前方アプローチによるPlug法を選択するケースが多くなってきました。UPPは、半吸収性素材であるため炎症反応を抑えるという報告もあり(※1)、

必要最小限の異物量しか体内に残さない患者さんのQOL向上が期待できるPlug型Meshということで、2009年8月から使用を開始しました。現在ではPlug型Mesh使用例においては主にUPPを選択し、約50例使用しております。麻酔については、局所麻酔、全身麻酔を患者さんに選択していただいております。入院については、1泊2日が原則で1週間後に外来でフォローアップしております。

従来のPlug型Meshを使用している時は、創部ががちがちに硬くなり患者さんから「いつになったら治るのか?」と聞かれるケースも散見し、またMeshの硬さからか血腫をきたした症例も経験しました。UPPに変更してからは術直後より創部が明らかに柔らかく、1週間後に外来で創部を診るとさらに柔らかくなっており、従来のPlug型Mesh使用時にでていた愁訴は現在までありません。また、術後の合併症についても再発、セローマ、血腫等は現在のところ経験しておりません(表2)。Plug型Mesh使用症例においては従来のHeavy weight meshから問題なく置き換えられると考えております。

●表2:UPP 50例の術後成績

再 発	0例
セローマ	0例
血 腫	0例

良性疾患でかつ若手外科医の登竜門的手術である鼠径ヘルニア手術については、今後も合併症ZEROを追求し、患者様により快適なQOLを提供することを目指していきたいと考えております。

(※1: Cobb WS, Kercher KW, Heniford BT. The argument for lightweight polypropylene mesh in hernia repair. Surg Innov. 2005 Mar;12(1):63-9.)

●ご意見・ご要望をお聞かせください。

貴院担当者：

連 絡 先：

高度管理医療機器 販売名:ウルトラプロ プラグ 承認番号:22000BZX01661000
高度管理医療機器 販売名:ウルトラプロ ヘルニアシステム 承認番号:22100BZX00839000



Z E R O へのこだわり

ETHICON
a Johnson & Johnson company

発行
ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社

エチコンジャパン マーケティング部
〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 TEL.03(4411)7901
*商標 ©J&JK 2010.6

ESJ00144